

5-2. 避難所の廃止

1. 避難所生活の長期化

01. 7月30日より、洞爺湖温泉町の避難指示区域で家財道具の梱包・搬出作業が行われた。

7月30日 避難指示区域の住民を対象に家財道具の梱包作業開始(1世帯4名)。温泉地区の自宅入居者は30日・31日。公営住宅入居者は8月1日・2日。泉地区住民は7月30日から8月2日までの間を作業日とし、作業時間は午前11時から午後3時まで、搬出は8月5日より実施。この日の参加は洞爺湖温泉地区61世帯164人、車両68台。泉地区は5世帯25人、車両5台により作業が行われた。

避難者数 81人(避難所3カ所)[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.274]

2. 避難住民支援サービスの終了

01. 7月5日に、避難住民向けに提供されていた行政ニュース・北海道からのお知らせ、ヘリ映像画像提供が休止された。

「行政ニュース」はA4版で、主に国の各機関からの支援情報と「北海道からのお知らせ」として道からの支援情報を掲載し、毎日1回発行されたが、活動状況の落ち着きとともに必要に応じて発行されることとなり、虻田町広報(号外)へ素材提供することになった7月5日まで発行された。

(中略)

ヘリ映像の提供は6月1日からは毎日1回の生放送に変更され、7月5日まで続けられた。[『2000年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.68]

02. 8月7日に、NTT有珠山災害用伝言ダイヤルが閉鎖された。

[『2000年有珠山噴火 災害対策の歩み』NTT東日本北海道支店(2001/1),p.29]によると、利用件数と避難住民の激減により、8月9日、災害用伝言ダイヤルの運用を停止した。

03. 8月20日、北海道獣医師会の「有珠山動物救護センター」が閉鎖された。

7月30日と8月初めに、センターで生まれた小犬10頭と飼い主のわからない犬猫12頭について、「新しい飼い主探しの集い」を行い、22頭すべてが新しい飼い主に引き取られた。その後、残った犬猫について飼い主の引き取りを要望、8月18日に最後の1頭が引き取られ、5カ月にわたった小動物救護活動が終了した。その後、施設の撤収、土地などの原状回復も完了して8月31日「有珠山動物救護センター」と「付属診療所」を閉鎖した。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.437]

有珠山噴火による住民避難の混乱の中、飼い主と離ればなれになったり、飼育を放棄さ

れたペットたちの保護活動を続けていた道獣医師会・有珠山動物救護センター＝伊達市竹原町＝が、きょう20日で閉鎖される。

同センターは4月2日から伊達市舟岡町に拠点を置いて活動を開始。犬、猫を中心に延べ350匹を収容し、元の飼い主や新たな飼い主に引き渡してきた。活動にかかわったボランティアは獣医が延べ約500人、一般ボランティアも5000人に上った。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.286]

04. 2001年3月31日に、災害用ラジオ局・FMレイクトピアが閉局した。

ありがとう76・1メガヘルツ。虻田町災害用ラジオ局・FMレイクトピアの最後の放送が31日、オンエアされた。有珠山噴火後、325回の放送を重ね、町民に身近な情報と勇気を発信し続けた「被災地のラジオ局」は、その使命を終えた。

「皆さん、お元気ですか」。ラジオから長崎良夫町長の第一声が響いたのは昨年5月8日。防災と復興の視点で身近な生活支援情報などを伝えてきた。昨年11月には閉局の動きもあったが、町民の強い要望と支援で放送を続けてきた。

30日に続きこの日も、スタッフが連日練ってきた番組を展開。本町のスタジオと、復興イベント会場の洞爺湖文化センターに設置したサテライトスタジオを結び、生放送を繰り広げた。

同日正午、放送がスタート。「閉局の第一声は町長の話か、情報が先かで議論」したことなどの裏話が次々と飛び出したほか、復興イベント会場では、生中継でシンポジウムの模様など大盛況の様子を伝えた。放送の終わりに長崎町長が「町民に愛され心の支えになった放送も、1つの区切りを迎えた。支援していただいた、たくさんの方に感謝したい」とあいさつ。最後に被災地の子供たちが歌う「スタートライン」が流れ、惜しむ声の中、被災者のためのラジオ局はエピローグを迎えた。[『室蘭民報』(2001/4/1朝刊)]

3. 避難指示解除および全避難所の閉鎖

01. 7月1日の伊達市武道館避難所の閉鎖により、伊達市内の避難所はゼロとなった。

虻田町は1日、避難所になっていた伊達市内の武道館を閉鎖、入所していた6人は仮設住宅などに移った。これで伊達市内の避難所がなくなった。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.255]

02. 7月6日に、観光施設が立ち並ぶ洞爺湖温泉街での避難指示が初めて解除された。

虻田町洞爺湖温泉町の東側地区が6日朝、およそ百日ぶりに避難指示が一時解除となり、温泉街に活気が戻った。観光客の受け入れに向けた準備作業に関係者が懸命な第一歩を踏み出した。残る避難対象は1018世帯、1934人になった。[『有珠山 - 平成噴火とその

記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.261]

03. 7月6日に、洞爺湖温泉町・泉地区の避難指示一時解除に併せて、カテゴリーの見直しを行った。

虻田町は5日、有珠山噴火で「カテゴリー3」地域となっている洞爺湖温泉東側地区の一時避難指示解除を、あす6日から実施することを決めた。併せてカテゴリーの緩和を行う。

(中略)

今回避難指示が解除になる地区の西側で、「カテゴリー2」となっている洞爺湖温泉地区を「カテゴリー3」に緩和、噴火口に近く危険度の高い「カテゴリー1」地区を一部「2」にランクダウンさせる。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.259]

04. 7月23日の3避難所の閉鎖により、豊浦町内の避難所はゼロとなった。

虻田町は、有珠山噴火で避難所となっていた豊浦町内の3施設を廃止し、虻田町内の4避難所に集約する方針を明らかにした。これで町外の避難所はすべてなくなる。引っ越し作業はきょう23日午後から行われる。

集約されるのは、豊浦町の旧エイベックス社員寮と高岡避難所、ふるさとドームの3施設。(中略)

3避難所の住民81人のうち、59人は町内外の仮設住宅に入居し、残る22人はあぶたふれあいセンターに移る予定。『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.273]

05. 7月28日、洞爺湖温泉地区の一部・泉地区の一部の避難指示解除により、避難指示解除は事実上完了した。

有珠山の噴火で被災した虻田町は28日午前、洞爺湖温泉、泉の両地区の333世帯、769人の避難指示を解除した。

解除対象は噴火口から半径約5百メートルと近く、危険度が極めて高いとされる「カテゴリー1」区域を除く地域。解除地域には町立洞爺湖温泉小学校も含まれており、同町の長崎良夫町長は「実質的に解除可能な所はすべて解除した」と強調している。

残る避難指示対象は両地区の202世帯、378人となるが、同区域について同町は当面解除が困難だとして、住宅の移設を促すとともに、住民への見舞金支給を検討している。

[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.276]

虻田町は26日、有珠山噴火でカテゴリー(C)が3と2になっている洞爺湖温泉地区の一部と泉区の一部合わせて333世帯、769人に対する避難指示を、28日午前9時に解除すると発表した。これでC3、C2は全面解除となり、町が4月から段階的に実施してきた避難指示解除は事実上完了したことになる。なお避難指示地区として残り、202世帯、378

人の住居がある火口に近い地区は今後、泥流対策の砂防施設区域内になる可能性が強く、公営住宅の新設や土地の提供、移転補償などが焦点になってくる。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.276]

7月28日 午前9時、カテゴリ-2と3の洞爺湖温泉地区の一部・泉地区の一部の避難指示を解除。この措置により、4月から段階的に実施してきた避難指示解除は事実上完了。長崎町長も「実質的に解除可能なところはすべて解除した」と強調。本日の指示解除対象は333世帯769人。この措置により避難解除地区は4,153世帯、9,330人、指示が継続される地区は202世帯、378人となった。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.275]



図 避難指示区域図(H12/7/14,7/28)(提供：北海道開発局)

06. 8月27日18時に虻田町内の避難所2箇所が閉鎖となり、避難所ゼロとなった。

有珠山の噴火で被災した虻田町は28日午前、洞爺湖温泉、泉の両地区の333世帯、769人の避難指示を解除した。

解除対象は噴火口から半径約500メートルと近く、危険度が極めて高いとされる「カテゴリ-1」区域を除く地域。解除地域には町立洞爺湖温泉小学校も含まれており、同町の長崎良夫町長は「実質的に解除可能な所はすべて解除した」と強調している。

残る避難指示対象は両地区の202世帯、378人となるが、同区域について同町は当面解除が困難だとして、住宅の移設を促すとともに、住民への見舞金支給を検討している。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.276]

7月28日 午前9時、カテゴリー2と3の洞爺湖温泉地区の一部・泉地区の一部の避難指示を解除。この措置により、4月から段階的に実施してきた避難指示解除は事実上完了。長崎町長も「実質的に解除可能なところはすべて解除した」と強調。本日の指示解除対象は333世帯769人。この措置により避難解除地区は4,153世帯、9,330人、指示が継続される地区は202世帯、378人となった。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.273]